

## 上賀茂試験地で公開森林実習 III ー森林・里山の生態系サービスを学ぶーを実施

京都大学フィールド科学教育研究センター

京都大学上賀茂試験地では、人と自然のつながりを学ぶ森林フィールドの教育関係共同利用拠点として、全国の大学生への共同利用実習科目提供を拡充するため、2020年度より公開森林実習 IIIー森林・里山の生態系サービスを学ぶーを新たに開講しました。上賀茂試験地の設置当初の目標は、外国産樹種の導入による樹木見本園の造成であり、外国からマツ属を始めとする多くの樹種が集められました。1970年代以降は、マツ枯れ被害の増大に伴い、マツノザイセンチュウの研究や被害の抑制に関する研究や、マツ属の生育に関する研究を中心に行われました。近年はマツの生育調査等が終了した林班が多くなり、そこを新しい教育や研究に活用することとなり、その一つの取り組みがこの公開森林実習 III です。

公開森林実習 III では、里山がエネルギーや食糧の供給場所として日本人の生活を支えてきた重要な生態系の一つであること、またその生態系サービスに関する学術的知見を体験的に学び、学生が自らの責任で里山整備の計画を立案し実行する能力を醸成することを目標にしています。さらに今後 10 年、20 年と里山の整備を継続することを念頭に置き、学生と共に中・長期的に活動が継続するような整備の計画を作っています。

2020 年度は 5 月から 6 月の期間に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて 10 月に変更しました。2021 年度から本格実施となり、同時に大学コンソーシアム京都の提供科目となったことで、京都市内の大学生が受講し単位を取得可能となり、京都工業繊維大学、同志社大学、京都先端科学大学など多くの他大学学生が参加しています。実習は 10 月から 12 月にかけて、週末に 5 回程度上賀茂試験地に集まり講義と実習を行います。担当教員による里山の歴史や生態系についての講義のほか、植物分類実習や、バイオマス測定実習、また技術職員の補助を受けながら炭作り、薪づくり、椎茸栽培、草木染めなど、里山の恵みを体験したり、アカマツ林の整備や、コナラ二次林の整備の方法を学んだりします。

実習に参加した学生が、実習終了後にも上賀茂で里山の整備活動をしたいと希望しており、今後は実習に参加した OB・OG たちが実習の終了後も活動が継続できる仕組みを作り、活動を広げていくことを予定しています。



写真 1：里山エリアでの整備作業



写真 2：炭窯の点火の様子を見学